

【豊島館や、戦後練馬の共産党の歴史 証言】

豊島館や戦後の練馬の共産党を知る方々に聞き取りをしました。その主だった部分を報告します。

2022年12月4日 石神井探訪実行委員会 鈴木 整（元日本共産党練馬区議）

証言 1 中本ひろしさん（97才）日本共産党元練馬区議会議員（第7期～9期、昭和46年5月～昭和58年5月まで、3期12年） 現在は土支田の高齢者施設に在住。

〔豊島館に住んでいた向啓太さんと、戦後の練馬の気風について〕

豊島館に最後まで住んでいた向啓太さんは生粋の労働者。私心のない素晴らしい人だった。人民大衆一筋で、共産党幹部にも大衆の立場で文句も言っていた。

西武池袋線沿線には大正、昭和にかけて党员やインテリが多くいた。早宮には絵描きの永井潔さんがいて自宅を開放してくれたり、情が深くて立派な人だった。

練馬には、23区の中でも革命的な人がいっぱいいたと思う。

〔豊島館の思い出〕

当時北町に住んでいたので、豊島館は近くまで行っただけ。

〔戦後の共産党の思い出〕

共産党は根性があった。占領下で弾圧を受けたもの。

私は、昭和24年(1949年)から「国民救援会」にいたけれど、三鷹事件、松川事件、下山事件などの謀略事件があった。

また1970年代～80年代にかけて、練馬は住民運動の多発地域だった。住民運動団体は52団体あって、こんなに多いのは全都で練馬だけだった。

誇りある伝統の街です。これを引き継いでがんばりましょう。

証言 2 小林キセさん（92才）日本共産党元区議会議員（第7期～8期、昭和46年5月～昭和54年5月 2期8年間） 現在は練馬区谷原のご自宅に在住

練馬の新日本婦人の会 初代事務局長

〔豊島館の床柱が自宅に来た顛末〕

豊島館の取り壊しは1975年12月7日から始まる。

その後、いつだったか分からないが床柱を、向啓太さんと夫の高仁さん、武藤芳雄元区議が家に持ってきた。長さ3m位の原木を磨いた様な柱だった。

何年かして共産党の人が引き取りに来て、その時は夫と向啓太さんが立ち会ったようだった。床柱は、その後は中央委員会の保管になったと聞いている。

〔豊島館の思い出は？〕

豊島館には、主のように向啓太さんが住んでいて、共産党支部の会議などで何回も行った。

玄関に入ると電球が1つ灯っていて、薄暗い廊下が真っすぐに伸びていて、床がウグイス張りのようにギンギンと鳴る。向さんから「力を入れて歩くと床が抜けるからな」といわれた。向さんの部屋は1階の左側で、水道が通っていないので井戸水だと言っていた。

また選挙の時は、大泉の保母学院の若い女性がアナウンサーの養成訓練でよく集まっていた。

〔戦後の練馬の共産党の活動〕

江古田の駅北口の商店街にあった熊木さん所有の建物の2階に共産党の練馬地区委員会があったと思う。その後、中村橋に移転して、跡に新婦人と生活と健康を守る会が入ったと記憶している。

小林キセさんは練馬の新婦人の初代事務局長で、会長は亀田フミエ共産党区議だった。新婦人の、最初の事務所は小林キセさんの自宅だった。

練馬の新婦人の中心は、他に熊木さん、岡本さん（漫画家の白土三平さんの奥さん）などだった。練馬の婦人運動は、堤さんや寺沢さん達がすすめていた。

証言 3 柏婦人（90代） 柏さんの家は代々、富士街道沿いで酒屋を営んできた家。

柏婦人は、石神井生まれ、石神井育ちの活動家。

亡くなった夫の柏隆二さんは積極的な活動家で、御用聞きをしながら、石神井地域のオルグ活動をしていた。

〔豊島館の思い出は?〕

戦前5～6才の頃に見に行った覚えがある。その頃から、古風な感じの建物だった。

〔戦後のレッド・パージの頃の共産党〕

18才ぐらいのときで、石神井公園駅の周りをGHQの米軍のジープが調べてまわっていた。

柏婦人の同級生には、白百合幼稚園の園長の清水さんや、三宝寺の先代和尚さん、道場寺の住職などがいて、立場は違うが共産党には好意的で理解がある方も多かった。

以前柏隆二さんが「戦後の非合法の時代に、野坂参三が石神井周辺のある家に潜伏していた」と言っていた話が伝わっている。しかし、ご主人は、婦人には党活動の中身はあまり詳しく話をしなかったようで、ご主人の活動内容は具体的には分からなかった。

レッド・パージ前は、徳田球一が演説に来たりしたが、その後 野坂参三が石神井近辺に潜んでいたかどうかは分からない。

証言 4 森さん (70代?) 元日本共産党練馬地区委員会勤務員

〔豊島館の思い出〕

豊島館が取り壊された1975年12月といえば、私は前年に入党したばかりで、戦前に党大会が開かれた場所というぐらいしか知らずに集いの現場にいたんだと思います。

したがって後から知ったのですが三宝寺池と豊島館は、日本共産党の歴史と伝統を知り語る上で身近な教材として大変大きな足跡(そくせき)です。

非合法で困難な中でも多くの人々に支えられ、社会進歩の事業に献身に奮闘した多くの先輩たちの遺志を受け継いでいきたいと思っています。

今も問題となっている統一協会・勝共連合が、当時も共産党の躍進と共にごめいていました。それらの謀略との闘いもありました。あの頃から約50年が経ちました。

(21世紀に入って、私が作った詩を紹介します)

三宝寺池の木々も 草花も 鳥も 虫たちも

緑いっぱいの大道に揺れ

満身創痍の9条は その全身で輝きをふくらませ

きらきらと私たちを待つ